



時間停止
人形遊心

— 一ノ瀬編 —

連続女子
妊娠事件？

ここ最近
そういう噂が
あるんだよねえ…

気付いたら
妊娠している？
そんなことが…？

にわかに
信じられないな

だが火のない所に煙は立たぬ
というからな。近くに
危険人物がいる可能性も
あるだろう。

じゃあ
さっそく
行ってこよ

私も個人的に
行動してみるから
君たちも調査して
おいてくれないか

パチンツ
ミン…

ん？
なんだ…？

声が…！

何故だ…
声だけじゃなく
身体がピクリとも
動かない…

やあ。
セイア…♡

!?
ピクッ



久しぶりだね。元気だった？

時を止めただと!? そんなこと…!

今君の身体触ってるけど気付いた？

なっ!? くっ… やめろ!手を離せ…!

まあそんなことはどうでもいいか。まあここに来たのは…

ミカ…ナギサ… 逃げてくれ…

私の能力をたまには誰かに見せたくてね。



だっ…誰だ…!?君は…!? いつのまに…!? 一体何をしたんだ…!?

ああそうか 今3周目だったか。

それはそうと セイアの意識と目周辺以外の時を止めさせてもらったよ。



じゃあ まずこれを見てよ

ナギサ、立て。

…!? どうしたんだ ナギサ!?

じゃあナギサ、テーブルの上で 激しく オナニーしろ。

なっ!? なんだと!?

ナギサ…!? 何を…

ガタ

ガタ

ガタ



⋮

ナギサ、
声出して喘げ

こうやって止めた時間の中で
「肉体操作」ができるんだ！
指示に従って動かせるよ。

もちろん意思はなしよ。



ハク

三ッ

三ッ
ビッ



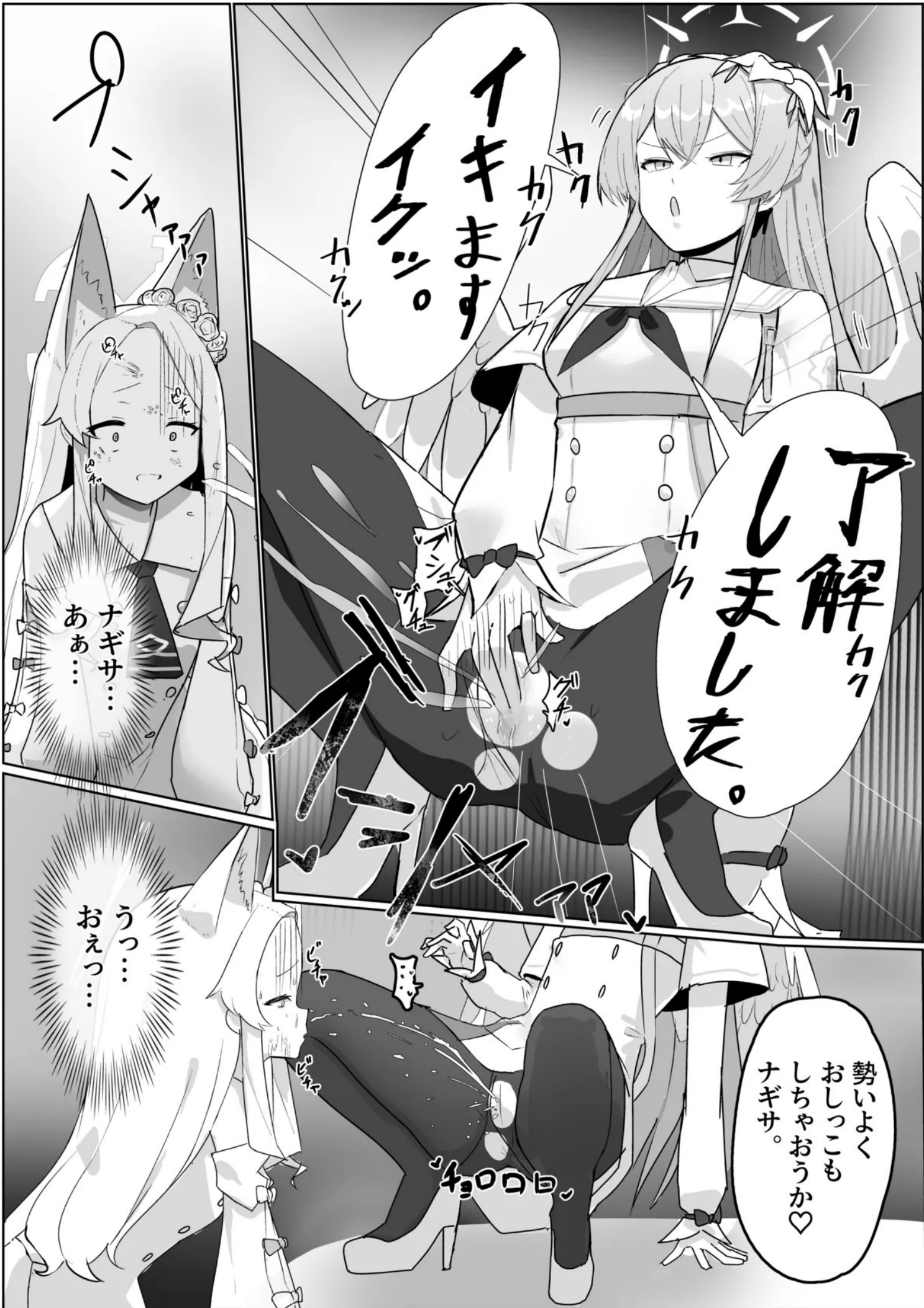
ほら、とりあえず
返事しながら
イこうかなギサちゃん♡



ナギサ…

声も
だせるんだ！
いいでしょ？

んっ
ハク
あッ



ニャアアア

イキます
イクツ。

ア了解
しました。

ナギサ…
ああ…

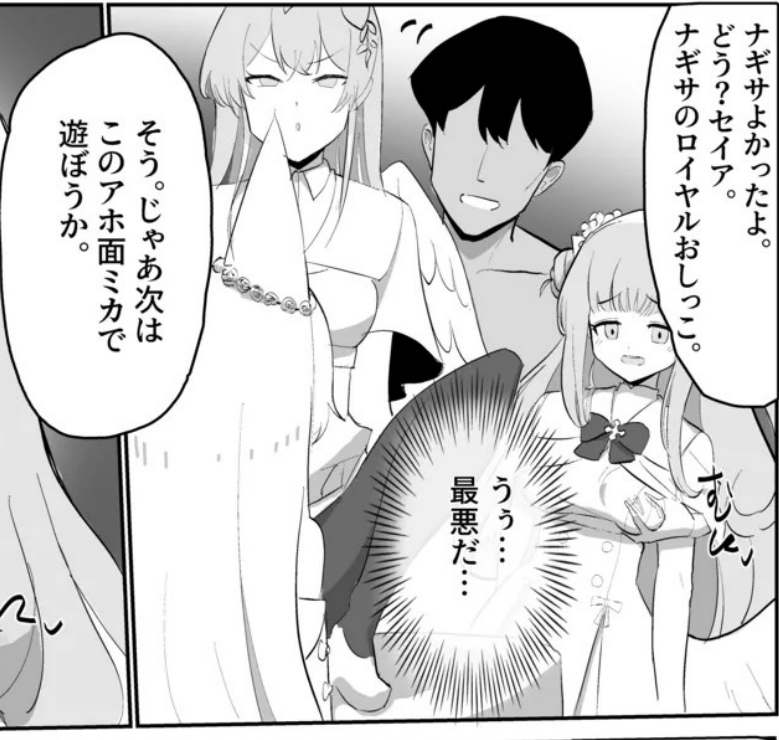
うっ…
おえっ…

勢いよく
おしっこも
しちゃおうか♡
ナギサ。



ミカ…!!
逃げてくれ…

だから
無駄だって
言ったじゃん



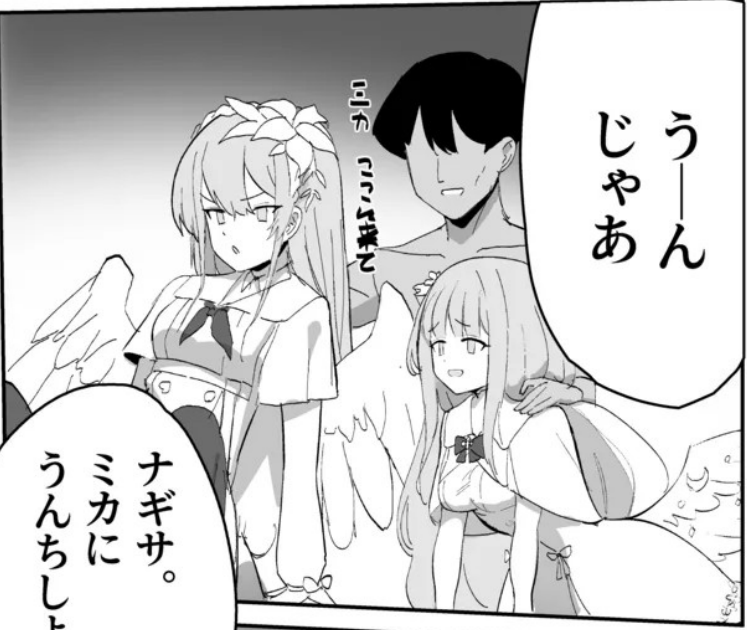
ナギサよかったよ。
どう? セイア。
ナギサのロイヤルおしっこ。

そう。じゃあ次は
このアホ面ミカで
遊ぼうか。

うう…
最悪だ…



お願いだ!
辞めさせてください…!!
なんでもするから…!!



うーん
じゃあ

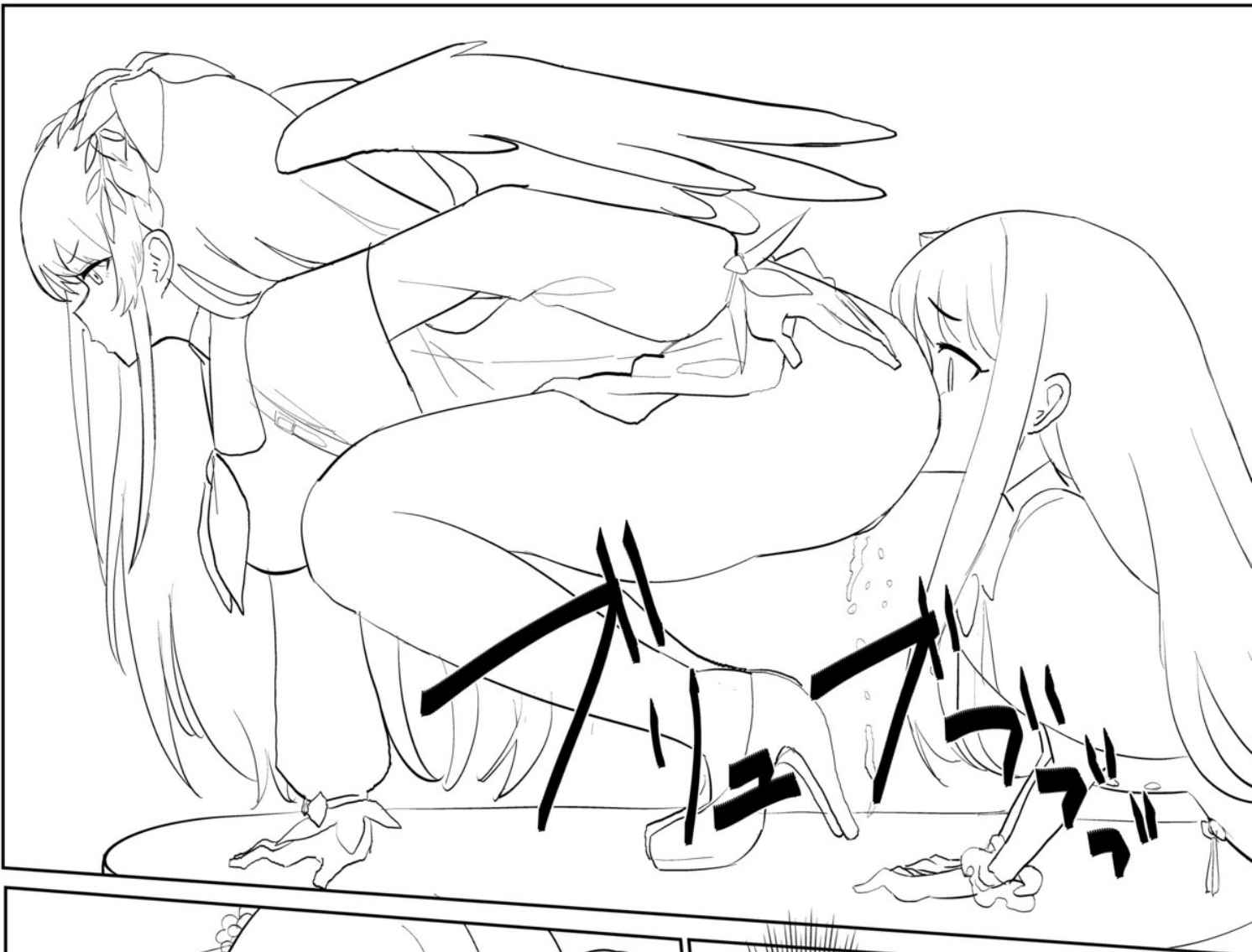
ナギサ。
ミカに
うんちしよっか♡



ズキ



…!!
やめてくれ
それだけは…!!



じゃあ二人はそつちでセックスでもしてて。

さあ〜て飽きてきたし最後はセイアで遊んじゃおうかな〜

よくも二人を…時が動いたらお前を殺してやる…!!

ああそれ面白いね!じゃあその遊びにしようか!

じゃあセイアの時間を動かすから私を殺してみてよ。

はっ!?

セイアが私を殺せれば時間が巻き戻って今までのこと全てなかったことにする設定にしておいたよ。

ハンドとして武器も使って良し!

まあ勝てるわけないけど今だ…

奴は油断しているこれはチャンスだ私は銃を持つてる…!!

まっつていろ二人とも!今助けるぞ!

私の勝ち

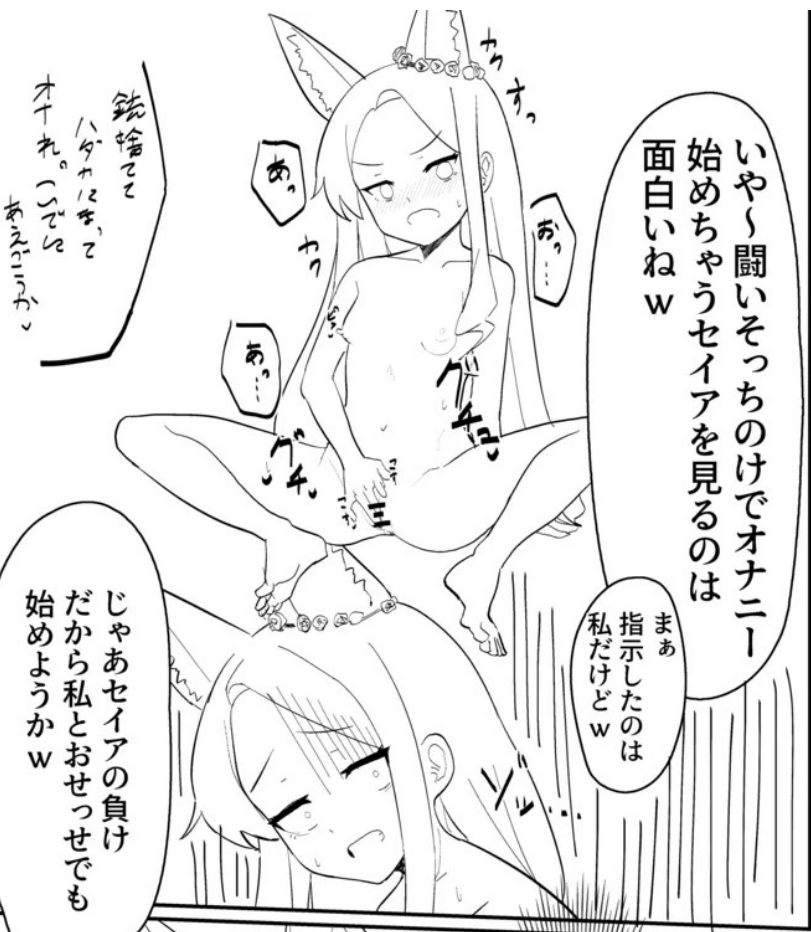
はははは！
滑稽だね！セイア！



だから私には勝てないと
あれ程言ってたんだよw

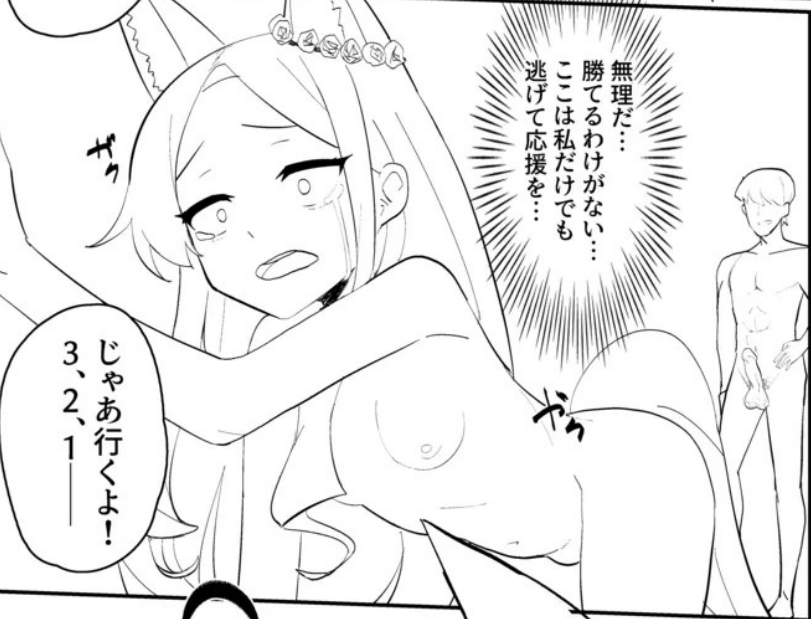
いや、闘いそっちのけでオナニー
始めちゃうセイアを見るのは
面白いねw

まあ
指示したのは
私だけどw



じゃあセイアの負け
だから私とおせっせでも
始めようかw

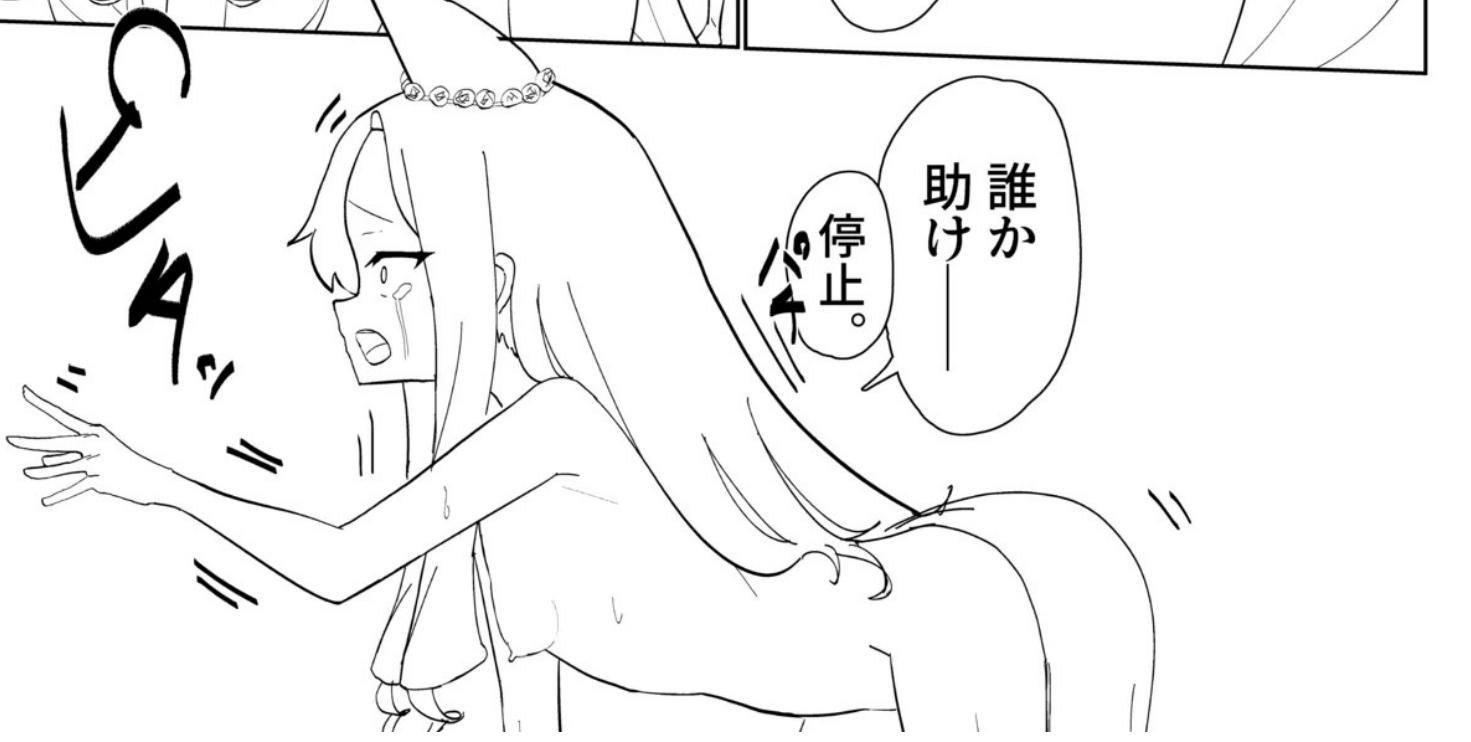
無理だ...
勝てるわけがない...
ここは私だけでも
逃げて応援を...



じゃあ行くよ！
3、2、1——

誰か
助け——

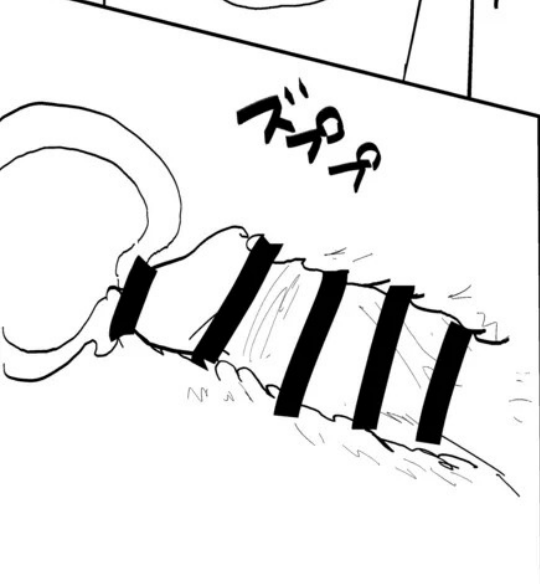
停止。





じゃあ
挿入るね

しよよ
!!



うーん
60点くらいかな〜

カクニ
カクニ

カクニ
カクニ

カクニ

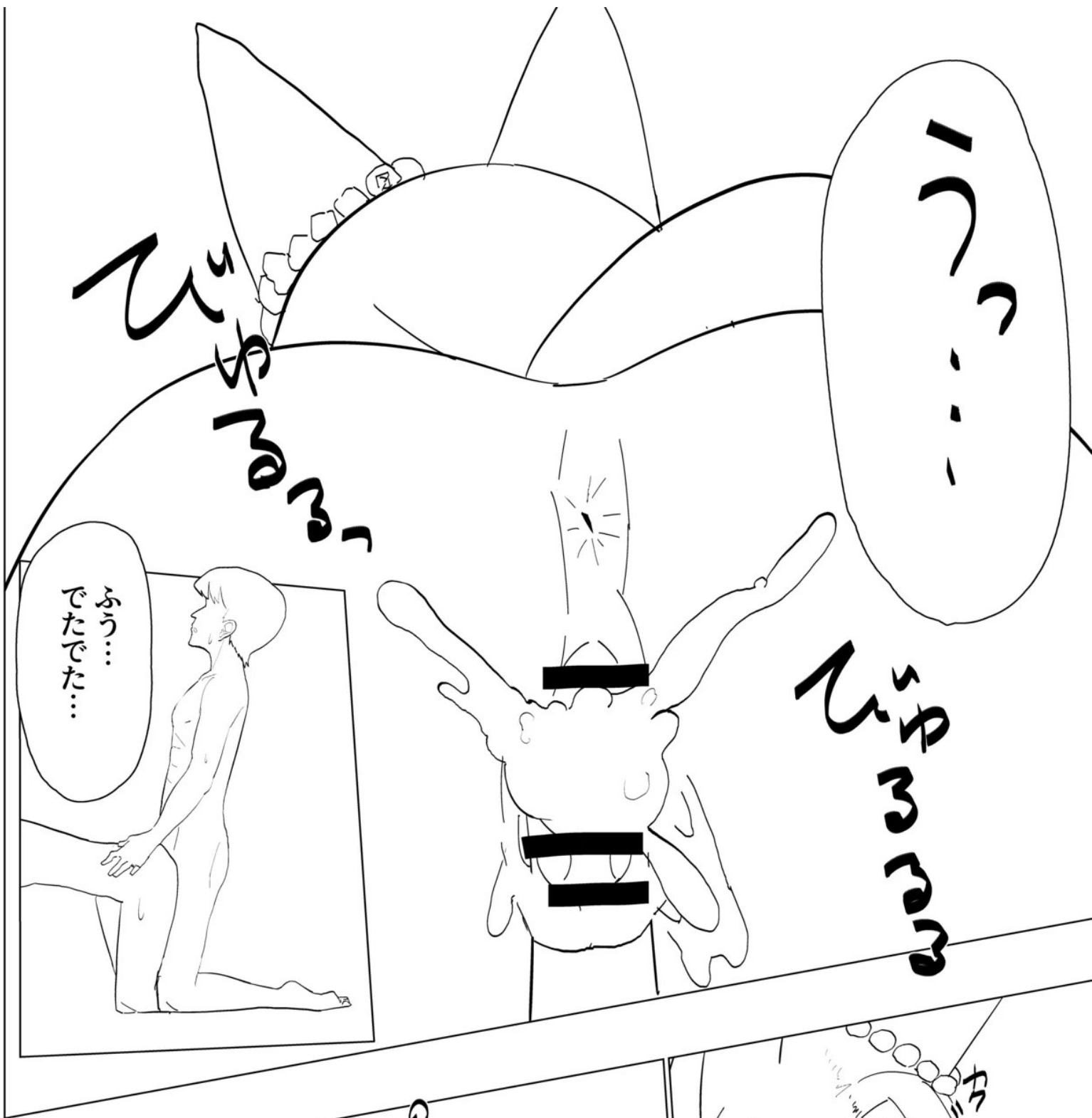
ならもう
適当に射精すね。

カクニ
カクニ

カクニ
カクニ

カクニ
カクニ

カクニ
カクニ



よし、皆の身体の位置は
元に戻ったね。

ついでに記憶も
最初に戻して
あげたよ。
良かったねセイヤ♡

じゃあ、そろそろ
時間停止…

まあ戻したのは
位置と記憶だけで
今までののは
残ってるんだけどねw

解除したら皆、訳も分からず
今までに感じたことのない位の
快感で襲われるんだよなw

セイヤ



解除。

——じゃあ
早速
行ってこよう。

何かあったら
連絡して欲しい。



わかったよ
セイアちゃん。
その時は私は
パパッと片付けて
おくよ!

ああ
よろしく頼む。
ナギサもよろしく。

はい。
分かりました。

…ん?
なにか臭いませんか
ミカさん…?



え——確かに
にお…うっ!?

えっ?

あっ



この出来事は
今は何も覚えていない。
気が付いたら
ベッドで寝ていた。



あれは一体何だったの
だろうと思いを残し、
私たちは普通の生活に
戻っていった。